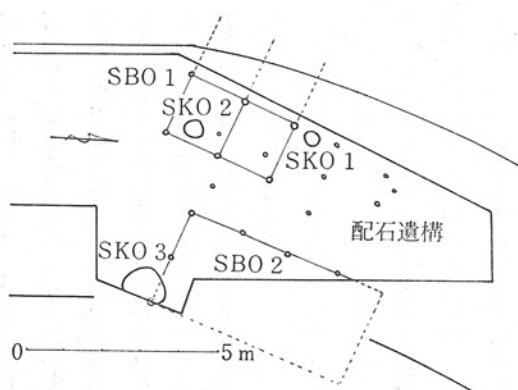


1980年出土の木簡

石川・御館遺跡

- 1 所在地 石川県鳳至郡穴水町字川島小字御館
- 2 調査期間 一九七八年（昭53）七月～八月
- 3 発掘機関 穴水町教育委員会・穴水町埋蔵文化財調査委員会
- 4 調査担当者 四柳嘉章・辻本馨
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 繩文中期・奈良・平安・鎌倉・室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 御館遺跡は、能登半島の屈折点にあたる穴水盆地のやや奥部に位置し、盆地を貫流する小又川がU字状に蛇行した、その内部の微高地に立地している。標高約二・六m。室町期後半における長氏の居館と伝えられている。



御館遺跡遺構配置図



御館遺跡の立地

- 8 木簡の积文・内容
 - (1)「大般若経転読」×
(135)×(40)×3 019
 - (2)×やむ□
(320)×(35)×10 081
- 9 関係文献
『西川島・I』穴水町
教育委員会

一九八〇年
四柳嘉章「能登・穴水
盆地における中世遺跡
群の調査」『信濃』第
三三卷第四号)

一九八一年
(四柳嘉章)